くろしお海援隊

（民泊受け入れ家庭）募集

一緒にやらんかえ！
よさこい高知国体

国体期間中、南国市に訪れる選手・監督、大会関係者は、全国から約千700人です。そのうち、秋季開催のバスケットボール競技、バドミントン競技の選手・監督の約800人を市民の皆様のご協力を得て、民泊で受け入れたいと考えています。

バスケットボール競技については、市内の地区協力会での受け入れをお願いしていますので、バドミントン競技の約550人について、受け入れてくださる家庭を募集します。

くろしお海援隊は、2002年高知国体で使われる民泊の愛称です。

竹崎 謙さん（外山）

昭和52年、高知県サッカー成年一般の監督として、青森県で開催された第32回国民体育大会（あすなろ国体）に参加。選手団とともに三戸郡五戸町の菖蒲川自治会館にて民泊。

「選手・監督とも大部屋での泊まりでしたが、食事は持童品がいっぱいで、フロは、近くの大衆浴場を利用しました。おばちゃんが太鼓片手に、試合の応援に駆けつけてくれ、良い成績（準優勝）を残すことができました。帰りには、民泊の世話人の方が自前のバスで、世話をしてくれた地元の人たちと一緒に十和田湖や奥入瀬渓流などの観光に連れて行ってくれたのが、景色とともに民泊の思い出に残っています」

高知国体マスコット
くろしおくん

20年以上たった現在でも、年2回それぞれの地方の特産品を送りあったり、突然の来訪があったりで交流は続いているとのことです。

栗田 佳子さん（里改田）左
浜田 綾子さん（片　山）右

昭和36年、秋田県で開催された第16回国民体育大会に参加。栗田さんは、陸上競技の走り幅跳びの部で3回目の出場、浜田さんは、陸上競技の走り高跳びで初めての出場。宿泊は、2人で秋田市の丸ノ内久さん宅に民泊。

「丸1日かかる国体列車での旅。体が痛くて、途中駅で止まるたびにストレッチをしました。駅についたらもう雪が降っていて、バスでそれぞれの宿舎へ移動しましたね。着いた家は、当時としては今風のかなり立派な家で、りんごのおいしさと初めて食べたキリタンポ鍋の温かさが思い出に残っています。帰る時には、ふきの絵のついた茶筒をいただいたり、とても親切にしてくれました。その後11年ほど手紙での交流をしましたが、当時学生だったこともあっていつしかなくなってしまいました。でも試合は忘れても、遠く離れてお世話になった民泊家庭の温かさと道々の真っ赤なサルビアの花（国体の花だったそう）の思い出は今でも心に残っています」

と語っていただいた2人の心は、『昭和36年の秋田県』に飛んでいました。

このように、民泊は過去の例をみても選手にも受け入れ家庭にも大変好評で、市民と選手・監督との直接の交流の場となり、国体でなければ経験できない思い出や感動を残しています。

民泊の内容

【宿泊期間】平成14年10月24日(木)～10月31日(木)のうち、3～8日間です。練習のために早く来市したり、敗退して早く帰る場合もあり、一定ではありません。

【宿泊人数】バドミントン競技に参加する選手と監督が1チーム単位で宿泊します。1チームは約4人（監督1人、選手3人）です。監督と選手のため、2部屋が必要ですが、状況により隣近所2軒で協力しての受け入れも可能です。

【食　　事】朝食、夕食は各家庭で用意していただきます。モデルとなる献立もあり、その料理教室も予定しています。

【おふろ】各家庭のおふろを利用させていただきます。

【洗　　濯】選手各自が行いますので、洗濯機と物干しが自由に使えるようご配慮ください。

【寝　　具】新しい物でなくてもかまいません。不足する場合は貸し布団などの斡旋をします。

【宿泊料金】1人あたり1泊2食付料金7,000～8,000円（確定次第ご連絡します）を宿泊者が各家庭にお支払いします。

【募集締切】平成12年4月14日(金)　午後5時まで。

【募集軒数】126軒（1軒当たり1チーム4人受け入れとして）。

【募集地域】競技会場への交通や輸送面の問題から、山間地域の上倉・瓶岩地区を除く地域とします。ただし、奈路・八京・穴峠・亀岩地区は募集対象とします。

【応募方法】電話でご連絡ください。氏名・住所・電話番号などをお聞きします。応募家庭には、後日お伺いしてくわしく説明します。

【受付時間】8：30～17：00（土・日・祝祭日を除く）

※お申し込み・お問い合わせは、
国体推進室内第57回国民体育大会南国市実行委員会事務局
〒783-8501 南国市大埔甲2301 ☎Fax863-6538
☎863-2111まで